

教職系科目

ここにあげたもの以外にも多くのご感想・ご意見をいただき、ありがとうございます。

●介護技術

- ・ひとの生活は移動することから始まる。移動することで生活の幅が広がり、人との交流が増え、その人の生活が充実していくのだと思いました。

●介護実習事前（・事後）指導

- ・将来、社会福祉に関する仕事を目指す高校生に自分の介護観をいかに持たせるかが大事だと思った。そのために、まず私自身が自らの介護観について、実習を通して学び、考えていきたいと思った。

●教育実習の事前（・事後）指導

- ・板書の使い方や指導案の書き方など、教職に大切な部分を教えていただき、とてもためになりました。

●教職実践演習

- ・講義内容ももちろんですが、先生が私たち生徒と対話をしようとしていることが嬉しく、その姿勢が勉強になりました。
- ・先生の知識の幅広さに、専門的知識だけでなく、関連する知識も重要であると感じました。

●障害者教育総論

- ・現場の教員の方々の大変さや先人の先生方の障害児教育の成果が法制度や指導方法として結実していることを学び、私もその学びを活かして児童に接していきたいと思います。障害を乗り越えていく力を身につけてもらう一助になりたいと思いました。

●知的障害者の心理

- ・知的障害のある子どもとの関わり方を、根拠のある関わり方にするために必要な知識を学べました。知的に遅れのある子ども達の「世界の捉え方」を考えることを大切にしようと思います。とても面白い講義でした。

●肢体不自由教育

- ・「自立活動指導時に、経験が無いからできないは通用しない。今、自分ができる努力をす

ることが必要」とおっしゃった先生の言葉。本当にそう思います。

- ・麻痺などで反射が出ない子どもに対して、「動きとして教えていく」ということになるほど…と思いました。また、体幹から末端へ、という発達順に沿って教えていく、ということもとても参考になりました。

●知的障害教育

- ・実践ですぐに役立つ事例がたくさんあり、参考になりました。それと同時に生活単元の授業で事例のようなことができたとうらやましく感じました。阿部先生が子どもたちといきいきと過ごされた様子が目に浮かびこちらまで嬉しくなりました。

●聴覚障害教育

- ・聴覚障害を持つひとが、見た目が健常者と変わらないために受ける誤解や、無理解があるということが分かりました。さらに丁寧に生徒を見ていかないといけないと感じました。
- ・聴覚障害や知的障害を持つ子どもにとって、触覚を通しての関わりがコミュニケーション行動の形成につながるということを初めて聞き、とても興味深かったです。さらに、聴覚に障害を持っている子どもたちも歌遊びを通して、リズムや音階を獲得していく様子には目をみはるものがありました。

●視覚障害教育総論

- ・今まで点字を学ぶ機会がなかったので、点字での言葉を知ることができて良かったと思います。視覚障害児に対する授業はどのようなことが行われているのか、またどのような道具を使って勉強しているのか、その様子がビデオや写真などで少しでも知ることができ、視覚障害への理解がより深まりました。

●重複障害教育総論

- ・原初的コミュニケーションにおいての大人の「読み取り」と「先取り」が大切であることを大変興味深く学習させていただきました。また、どんな子どもでも未来に可能性があり、障害を乗り越えて一緒にできる何かを探れる、というお話にも感動し、明るい気持ちになりました。
- ・「関わる側の教員が、対象児の実態把握が難しいと感じた場合、その教員も障害者である」という考え方について、教員が対象児のことを「見えない」「感じられない」「考えられない」という状態を指すという意味であると知り、このことは対重複障害児の場合だけでなく、対健常児童生徒の場合でも起こりうることでありと考えさせられました。

●発達障害者の心理

- ・難しい内容も具体的な例をたくさん出していただき、わかりやすかったです。また、疑似体験することで発達障害をもつ子どもの気持ちが分かり、良い経験ができたと感じます。とても有意義な時間でした。

●発達障害教育総論

- ・他の子と同じようにさせようとしてしまうことは、発達障害児に無理をさせてしまうことになる。「平等ではなく、合理的配慮を」という言葉がとても印象的でした。また、演習を行ったことで障害の特性もより理解することができ、他の受講生の意見もとても参考になって良かったです。

●障害者（児）教育実習の事前・事後指導

- ・荒川先生の「子どもが好きだという気持ちが1番大切」というお言葉に、実習が目前で不安だらけだった私の中で、何かが吹切れた気がしました。ありがとうございました。
- ・現場のVTRをたくさん見せていただいたことで、今まで書物で想像しながら学習をしていたことがとても分かりやすかったです。先生のお話も実際の現場を考えられた講義だったので理解しやすく、学んだことをすぐ役立てていきたいと思った。

●特別支援教育支援員概論

- ・今回は肢体不自由が中心でしたが、特別支援教育支援員として子どもの困り感を感じとって心に寄りそって「自分が大事だよ」とその子のやれることを増やしていけるよう支援していきたい。
- ・“できない”ではなく、どうやったら“できるのか”どの部分ができるのか、何が得意なのか、そのような考えや目をいつまでも持っていたいと感じることができました。
- ・学習性無気力に子どもをさせないために幅広い、あたたかい心を持って欲しいと言われたこと、全くその通りだと思いました。